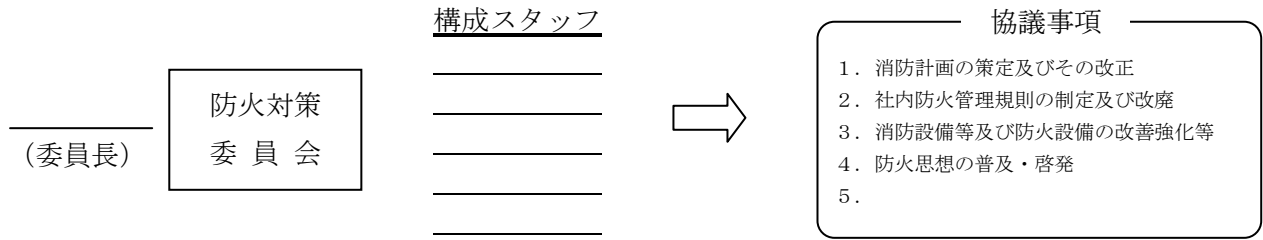


(対象名)

消防計画

年 月 日

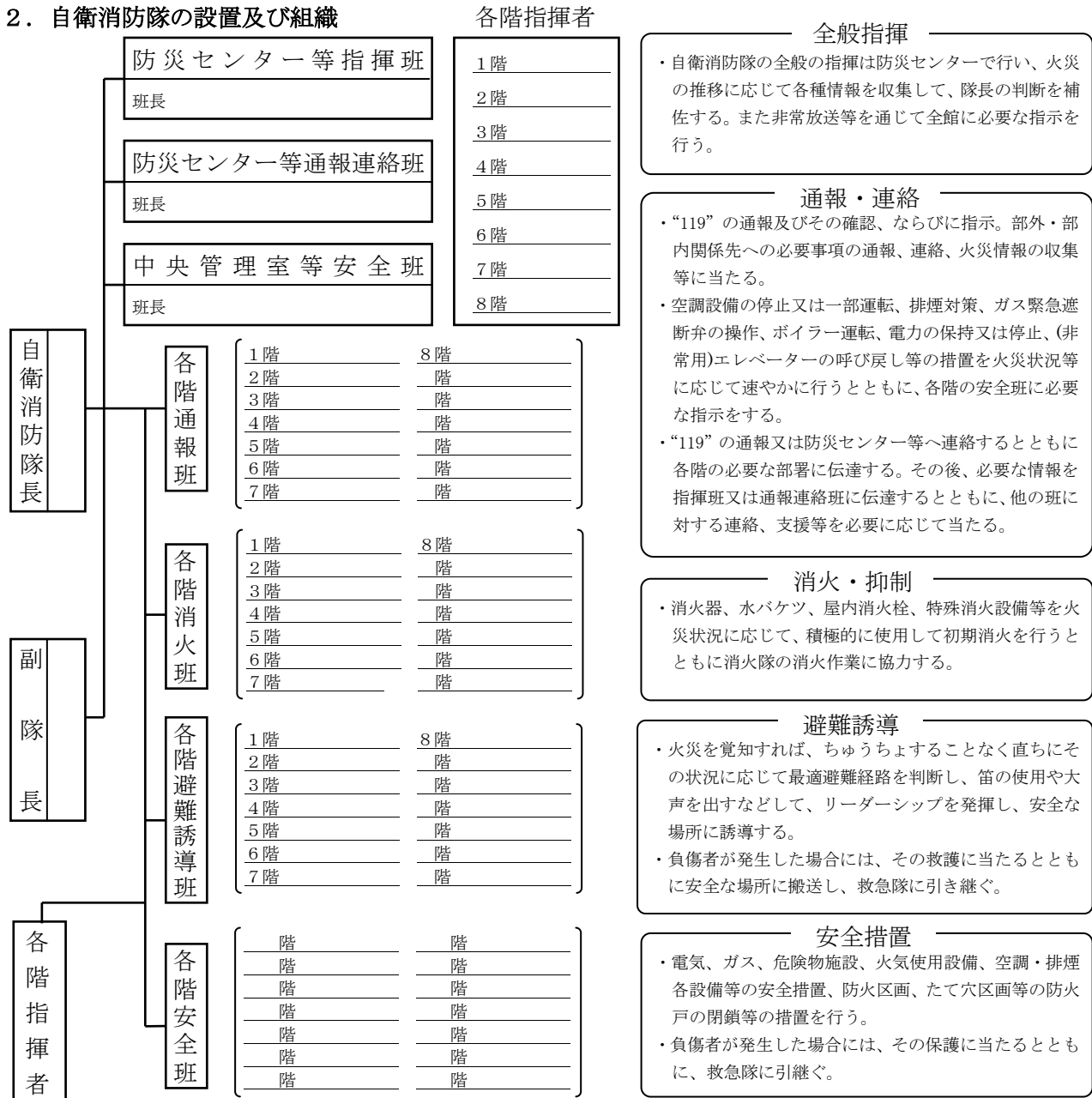
1. 防火対策委員会の組織及び協議事項を次のように定める。



社内防火管理組織図



2. 自衛消防隊の設置及び組織



3. 消防用設備等の担当者を次のように定める。

階数	消火器 担当	避難器具 担当	屋内消火栓 担当	スプリンクラー 制ぎょ弁 担当	自動火災報知設備	
階	本	個所	個所	個所	・受信機設置場所 階の_____	
階	本	個所	個所	個所		
階	本	個所	個所	個所	(担当) 昼間() 夜間()	
階	本	個所	個所	個所		
階	本	個所	個所	個所	・副受信機設置場所 階の_____	
階	本	個所	個所	個所		
階	本	個所	個所	個所	(担当) 昼間() 夜間()	
階	本	個所	個所	個所		
階	本	個所	個所	個所	放送設備	
階	本	個所	個所	個所	設置場所 階の_____	
階	本	個所	個所	個所		
階	本	個所	個所	個所	(担当) 昼間() 夜間()	
階	本	個所	個所	個所		
を設備の操作・監視業務を委託する場合	総合操作盤	中央管理室	特殊消火設備			連結送水管等
	設置場所 階の_____	設置場所 階の_____	設備名	設置場所	担当	・送水口設置場所 _____
	(担当) 昼間() 夜間()	(担当) 昼間() 夜間()				
						・消防隊誘導担当 ()
	委託先	電話	委託内容			
業務委託をする場合						

4. 通報・連絡方法は次のとおりとする。

出火場所から“119”に通報

- (第一報)
- ・火災発見者等が社(店)内電話を使用して直接“119”に通報する(ピーという発音音を確認してからダイヤルする)。
 - ・火災発見者等は各階に設置された非常電話を使用して指揮班(保安室、事務室、防災センター)に通報する。
 - ・火災発見者等は社(店)内電話を使用して指揮班(保安室、事務室、防災センター)に通報する。
 - ・自動火災報知設備受信機により火災覚知した場合、又は火災発見者等から連絡を受けた場合、保安係員等は“119”通報するとともに現場を確認し、状況により全館鳴動及び非常放送する。
 - ・出火場所からの通報、又は自動火災報知設備及びスプリンクラー設備など2以上の発報信号が入ったならば、直ちに“119”するとともに、現場確認を指示し全館鳴動及び非常放送をする。
 - ・“119”通報内容は「火事です。所在地は〇〇区〇〇町の〇〇です。近くに〇〇があります。」「〇階の〇〇部分が少し(激しく)燃えています。」「現在のところ逃げ遅れはない(ある)模様です。」「誘導員が〇〇に待機しています。」等とする。
 - ・非常通報装置(ワンタッチ)を使用する。
 - ・通報連絡方法等の細部計画は社(店)内防火規則に定める。

出火場所から指揮班に通報

- ・火災が発生したことを通報する。
- ・出火場所の細部(布団売場の南の隅が約10㎡ほど等)を通報する。
- ・初期消火が可能(不能)の判断を通報する。
- ・初期消火のための応援の必要(不必要)の判断を通報する。
- ・一部避難又は全部避難の必要(不必要)の判断を通報する。
- ・消火した場合は直ちに報告する。
- ・負傷者、逃げおくれ等の有無を通報する。
- ・通報連絡方法等の細部計画は社(店)内防火規則に定める。

指揮班から消防隊に通報

- ・消防車の誘導を行う。
(表、裏、東西、入口等進入が容易に出来るようにする。)
- ・火災現場への誘導を行う。
火災状況、延焼状況報告を行う。
- ・在館者状況、避難状況、要救助者存否の報告を行う。
- ・屋外階段、特別避難階段、屋内階段、非常用エレベーターの位置及びその他の消火活動上必要な建物状況を報告し、説明する。
- ・危険物品の存否その他特異状況を報告する。
- ・指揮班→“119”
- ・延焼拡大状況、避難状況、応援要請の有無、必要資機材等を通報する。
- ・消火した場合は直ちに報告する。
- ・通報連絡方法等の細部計画は社(店)内防火規則に定める。

5. 消防活動を行う際の一般的な必要事項を次のように定める。

冷静に判断

- ・火を見てもあわてず何が燃えているかを確認する。
- ・みだりに窓、その他の開口部を開けたり、破壊したりしない。
- ・とりあえず手近にあるもので叩き消す。
- ・水バケツ、砂、消火器などを使用する。
- ・消火器の使用限度は、火が天井に着火するまでとし、いつまでも消火器に執着しない。
- ・各階又は各場所の消火器を集めるような時間のかかることは絶対にしない。
- ・屋内消火栓の使用は火災覚知と同時に始める。
- ・屋内消火栓の操作順序は「起動ボタンを押す」、「ホース延長」、「ノズルを火点にむける」、「バルブを開ける」とする。
- ・ホース延長の際、ホースのねじれ、折り曲げなどの放水障害に注意する。
- ・屋内消火栓による消火も限度があるので、効果がないと判断したら直ちに避難する。

姿勢は低く

- ・密閉された部屋の開口部をあけるときは、注水の用意ができてからとする。その際は必ず姿勢を低くする。
- ・密閉された部屋の開口部をあけたり、破壊された場合は、部屋全体が炎に包まれ、急激な煙の噴出する爆燃的火災現象が発生しやすいので十分注意する。
- ・火点に注水後は急激に蒸気を含む煙が増加するので驚かない。
- ・タオル等で口を覆い低い姿勢で注水作業を行う。
- ・延焼はどの部分に及ぶか予測し難いから、周囲の状況に注意し、退路を考え深追いしない。
- ・スプリンクラー設備により自動消火した場合、消火を確認した後、速やかに警戒区域のスプリンクラー制ぎょ弁を閉鎖し、水損防止をする。

6. 消防隊の支援活動を行う際の必要事項を次のように定める。

- ・消防隊が現場到着した場合は、火災、延焼状況等負傷者、逃げおくれ等の有無を報告する。
- ・消防隊と放水作業等の交替は円滑に行う。
- ・消防隊との要請により、消防隊の消火作業を支援する。

- ・消防車両進入障害物を除去し、消防車両を誘導する。
- ・消防隊員を火災現場に誘導する。

7. 個別消防活動を行う際の必要事項を次のように定める。

特殊消火設備による活動

- ・小規模火災のうち消火器を使用する。
- ・的確な判断により早期に特殊消火設備の使用を決断する。
- ・使用時は付近の関係者に注意を喚起する。
- ・特殊消火設備を使用した旨を直ちに指揮班に連絡する。
- ・特殊消火設備を使用した旨を消防隊にも直ちに連絡する。
- ・使用後は関係者は早期に避難する。
- ・鎮火後は喚起を行った後でなければ絶対入室しない。
- ・入室は現場責任者の許可を得た後とする(入室する場合は、空気呼吸器等を着装する)。
- ・ガス系の場合は起動する際無人であることを確認する。
- ・不活性ガス消火設備の場合は特に上記各項については留意すること。

安全班の活動

- ・対象物全体の空調設備の停止、又は一部運転等の判断を速やかに行う。
- ・対象物全体の排煙対策を決定する。
- ・対象物全体の防火区画、階段区画等の閉鎖状況を確認する。
- ・火災の推移に応じ、ボイラー運転又は停止、電力保持又は停止等の必要な措置を行う。
- ・非常用エレベーター、一般エレベーターの呼び戻しをする。
- ・ガス漏洩事故の際、ガス緊急遮断弁によりガス遮断する。
- ・上記各項目については、特に防災センターの合意のもとに行い連絡を密にする必要がある。

各階安全班の活動

- ・各階設置の空調設備の停止又は一部運転等の判断を速やかに行う。
- ・各階に設けられた排煙設備を操作又は作動させる。
- ・各階の防火区画、階段区画の閉鎖措置又は閉鎖の確認を行う。
- ・各階のガス施設その他の危険物施設等の安全措置を行う。
- ・上記の措置を行った場合は直ちに安全班に通報する。
- ・必要に応じて、防災センターの指示を受け、行動するものとする。
- ・作業中に危険を感じた場合は直ちに避難しなければならない。
- ・安全措置に関する細部計画は社(店)内防火規則で定める。

8. 二方向避難経路を次のように確保する(二方向避難とは各階のあらゆる場所から、異なる経路を
通って安全に避難ができることをいう。)

(階別)	屋内階段	特別避難階段	屋外階段	バルコニー等	救助袋	その他の避難器具
B 2						
B 1						
1 F						
2 F						
3 F						
4 F						
5 F						
6 F						
7 F						
8 F						
9 F						
10F						
11F						
12F						
13F						
14F						
15F						
16F						
17F						
18F						
19F						
20F						
21F						
22F						
23F						
24F						
25F						
26F						
27F						
28F						
29F						
30F						

※各階の避難経路が複雑な場合には、簡単な避難経路図を添付してください。

特記事項

(以上のほか、特記する事項があれば記入してください。)

16. ガス漏れ事故対策を次のように定める。

- ・ガス漏れ事故対策は、ガス防災管理者(防火管理者)の指示の下に行う。
- ・平素から、ガス器具、ホース、各コックの老朽、破損等の点検整備をし、不相当使用は厳に禁止する。
- ・ガス機器使用後は必ず閉栓することを義務づけ、夜間、休日は保安員等が点検する。
- ・ガス漏れ時は付近のガスコックを閉鎖し、火気厳禁するとともに、次により遅滞なく“119”等にガス漏れ状況、爆発状況を詳細に通報する。

- ・緊急時には二次災害に十分考慮を払い、必要に応じ時機を失せずガス供給遮断弁を閉鎖する。
- ・館内通報の内容はおおむね次のこととする。
 - ア. ガス漏れ事故発生場所とその概要
 - イ. 火気使用禁止の指示とその範囲
 - ウ. 避難誘導及びその指示等
- ・消防隊及びガス供給事業者の到着時、実施措置内容、事故概要等の情報を報告するとともに、必要な指示を受け協力する。
- ・以上のほか、ガス漏れ事故対策について必要な事項は、社(店)内防火規則に定める。

```

graph LR
    A["ガス漏れ発見者  
勤務者  
通行人"] -- "口頭  
又は電話" --> B["防災センター"]
    B -- "局線" --> C["消防機関"]
    B -- "ホットライン" --> D["ガス供給事業者"]
    B -- "119" --> C
    
```

- ・通報内容は「〇〇〇でガス漏れがしています。(ガス爆発がありました)。所在は〇〇〇〇です。ガス漏れ(爆発)部分は〇階の〇〇です。ガス漏れ範囲は〇〇〇〇〇〇です。」等とする。
- ・館内への避難通報は、混乱を引き起こさぬよう十分考慮するとともに、ガス漏れの規模、範囲等に応じて最小限の応急措置要員を残し、必要な避難誘導を行う。

17. 震災対策措置は次のとおりとする。

地震予知情報又は警戒宣言が発せられた場合等の震災対策措置

- ・自衛消防隊長は直ちに自衛消防隊を編成し、地震発生に備えるとともに、関係各部署に対し必要な指示・命令をする。
- ・通報連絡班は地震情報の入手・収集につとめ、必要に応じて関係各部署に連絡・伝達を行う。
- ・指揮班は自衛消防隊と協議のうえ、在社(店)者等を直ちに避難させるかどうかを決定する。
- ・避難させる場合には、各階通報班に連絡し、パニック等の異常事態を惹起しないよう具体的な避難方法を指示する。
- ・直ちに避難させる必要がない場合には、非常放送等により地震情報を具体的に在社(店)者等に広報する。
- ・各階避難誘導班は落下物、器物倒壊等により通行障害にならないような避難経路を選定しかつ確保する。
- ・各階消火班は消火器・屋内消火栓の点検を行う。
- ・各階消火班、安全班は社(店)内の火気使用の中止又は制限を行うとともに、その転倒・落下防止等の措置を行う。
- ・安全班は社(店)内外の落下・転倒・崩落等のおそれのある物品(看板・積荷・外壁・窓ガラス・器具什器・ロッカー等)の点検ならびに固縛、補強等の措置を行う。

- ・安全班は消火用設備等の全般の点検及び、自家発電設備の始動点検をする。
- ・安全班は危険物施設及び、物品の点検ならびに流出、落下、転倒防止対策を行う。
- ・非常用資機材ならびに飲料水、非常食料、医薬品等の点検、整備を行う。
- ・各階消火班、安全班は各担当部署ごとに、地震時に火気使用設備の使用停止措置を行う。その際の担当範囲は出来る限り小範囲とする。
- ・安全班はボイラー、空調機等は保安上必要なもの以外は直ちに停止する。
- ・地震時または、揺れのおさまった後、買い物客等が屋外に一斉に避難しようとするときは、直ちに大声で制止するなどの措置を講ずる。
- ・地震後、直ちに関係各部署から被害報告を求め、必要な措置を講ずる。
- ・地震後、在社(店)者を屋外に避難させる必要があるときには自衛消防隊長の指示により開始し、避難先等を明瞭にするとともに、避難人員等を把握する。
- ・以上のほか、細部事項については各地方公共団体の作成する地域防災計画の趣旨に則り、社(店)内防火規則で定める。

18. 危険物施設における遵守事項

- ・許可施設にあっては、危険物取扱者は法令の定めるところにより危険物施設の点検、整備等を実施し平素から防火管理者と協力して火災予防につとめる。
- ・

19. 消防用設備等の法定点検及び報告については次のように定める。

	設 備 名	委 託 業 者 名
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年消防用設備等の法定点検(6か月ごとに機器点検、1年ごとに総合点検)を行うとともに、日常の自主点検を行い設備の維持管理をし、自主点検の内容、方法等は社(店)内防火規則に定める。 ・その点検結果を毎年 月に消防署へ報告する。 ・その点検結果を3年に1度 月に消防署へ報告する。 ・上記法定点検は(自社、委託)で行い、委託の場合の委託先は右のとおりである。 ・防火対象物の点検報告は次の要領で行う。 		

20. 防火対象物定期点検及び報告

<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、防火管理上必要な業務について防火対象物点検資格者に点検させるほか、日常の自主点検を行う。(自主点検の方法、内容等は社(店)内防火規則に定める。) ・その点検結果を毎年 月に消防署へ報告する。 ・上記の法定点検は(自社、委託)で行う。(委託の場合の委託先は次のとおり。) 委託先： _____ ・防火対象物のすべての部分が点検基準に適合している場合には、点検済みの表示を行う。 (表示場所： _____) ・防火対象物定期点検報告制度に関し、特例認定が認定された場合には、特例認定の表示を行う。 (表示場所： _____)
--

21. 防災教育は次のように実施する。

<ul style="list-style-type: none"> ・震災対策を含む消防計画の内容、社(店)内防火規則の内容は、従業員に対する研修等で徹底する。 ・特に新入社員、派遣社員、パートタイマー等については採用時等の時期に研修を徹底する。 ・防災センター要員に対する教育を計画的に実施する。 ・自衛消防隊員等については、できるだけ市民救命士の資格を取得させるとともに、定期的な再講習の受講に努める。 ・上記の他防災教育について、必要な事項は社(店)内防火規則に定める。
--

22. 防火管理台帳の作成上の遵守事項

<ul style="list-style-type: none"> ・防火管理維持台帳を整備し、防火対象物点検結果について記録するとともに、必要な書類等を保存する。(消防法第8条の2の2の適用を受ける場合) ・防火管理台帳に「防火管理者選任(解任)届出書」、「消防計画」、「社(店)内防火規則」、「防火管理台帳総括表」、「棟別状況表」、「危険物施設一覧表」、「条例による届出施設一覧表」、「防火管理記録」及び「査察結果通告書」など、その他の必要な図書を編冊し保存するとともに、必要な記録を行う。 ・消防法令により必要とされる「消防用設備等点検結果報告書」、ボイラー、変電設備等の各種届出を消防署に届け出、副本を保存する。
--

23. 社(店)内防火規則作成上の遵守事項

<ul style="list-style-type: none"> ・本消防計画を実施するため必要な細部事項は、社(店)内防火規則に定め、その周知徹底を図ることにより、火災予防ならびに人命安全確保に努める。 ・本消防計画ならびに社(店)内防火規則は常に見直しにつとめ、当該防火対象物の実態に合致した内容になるよう管理権原者はじめ防火管理関係者は努力しなければならない。

24. 管理権原の明確化

<ul style="list-style-type: none"> ・各管理権原者の権原の範囲は、原則として当該防火対象物における各管理権原者の当該占有部分とし、かつ、当該所有者にあつては、階段部分等の共用部分を含むものとする。ただし、区分所有の場合においては、各管理権原者の当該専用部分と階段等の共用部分とする。 ・これと異なる場合又は管理権原者が複雑な場合は別図等で明確化を図る。

※消防用設備等及び避難器具等の概略配置図を本消防計画の末尾に添付してください。